

民主化闘争情報

No. 921
2015年3月13日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR総連への革マル派浸透問題は、歴代の内閣で「影響力を行使しうる立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している」とする答弁書が閣議決定され、さらに昨年の衆議院予算委員会で安倍首相が「革マル派活動家がJR総連、JR東(労組)に影響力を行使しうる立場に相当浸透している」と厳しく指摘したことは既報のとおりである。最近では、JR総連・JR北海道労組への革マル派浸透疑惑が深まっている!?

これがJR総連・JR北海道労組の実態!?(vol.3) 革マル派との関係が取り沙汰される 警察庁「革マル派との関係、鋭意解明に努める」

革マル派は、将来の共産主義革命に備えるため、その組織拡大に重点を置き、周囲に警戒心を抱かせないよう党派性を隠して基幹産業の労働組合等、各界各層への浸透を図っており、政府答弁書においても「JR総連及びJR東労組内において、影響力を行使しうる立場に革マル派活動家が相当浸透している」と指摘されている。さらに警察庁はJR北海道労組への革マル派浸透問題について、断定は避けたものの、捜査の対象であることを国会で明らかにしている。さらに公安調査庁の機関誌においても革マル派がJR北海道労組等の組合員の取り込みに力を注いだと指摘している。

- ・「革マル派は・・・JR北海道労組などが加盟するJR総連を始めとした・・・組合員の取り込みに力を注いだ」(公安調査庁 内外情勢の回顧と展望 平成26年1月号より抜粋)
- ・革マル派は、JR総連等の基幹産業労組の組合員獲得に傾注(中略)革マル派は、機関紙「解放」で(中略) JR北海道の経営陣を批判した上で、「JRの仲間とともにたたかおう」と訴えた。(同 平成27年1月号より抜粋)
- ・最大労組(JR北海道労組)は革命的マルクス主義派との関係も取り沙汰されている。警察庁官房審議官は「(革マル派との)関係について鋭意解明に努めている」と回答している。(テレビ朝日系「ゆがんだレール JR北海道の憂鬱」より抜粋)

閉鎖的とも言える組合体制を象徴する事件が白昼のJR札幌駅で以前に発生している。対立する組合の組合員が最大労組の組合員を結婚式に招待したところ、最大労組側が対立する組合の組合員に詰め寄り、「友達じゃないでしょ、組合が違うんだから」と吐き捨てたという。このような閉鎖的な体制は国会でも非難され、「職場での人間関係、連係作業に影響が出る」と警鐘を鳴らした。

私たちJR連合・JR北労組は、風通しのよい職場風土の構築にむけて、良識あるJR北海道労組の皆さんの結集をお待ちしています。

**良識あるJR総連・JR北海道労組の皆さん!
安心できる職場の構築にむけてJR連合に結集しよう!**